

なぜ今男女共同参画社会なのか

金沢大学法学部教授 名古道功

はじめに

内灘町に男女共同参画推進委員会が発足し、男女共同参画について講話をとということでした。私がここでお話ししたいのは、第1に、なぜ男女共同参画を進める必要があるのか、第2に、男女共同参画とはどういうものであるのかについて正確に理解していただきたいということ、第3に、男女共同参画を進めるに当たってどういうことが重要なのかの3点です。

1. 男女共同参画はなぜ必要なのか

まず、男女共同参画はなぜ必要なのかという点からお話します。この話をするに当たって男性の本音というところからお話していきたいと思います。

男女役割分担ということはよくご存知だと思います。「男は仕事・女は家庭」ということです。この男女役割分担をなくしていこうということが男女共同参画の目的です。

男の本音とからすると、この性別役割分担は男性にとって居心地が良いわけです。仕事に専念し、家では何もしなくても、食事の用意が出来ている、子供の世話もしなくていい、「めし」とか「新聞」とか一言で、全て奥さんがやってくれる。男女役割分担は男の本音から言うと変わって欲しくないといえます。

2番目の男の本音として、女性が強くなることを快く思わない。これは伝統的に男尊女卑という考え方があり、何事につけても男が上であると。ですから、女性から何か意見をいわれると怒るとか、男性から言われるには何でもないので、女性から言われると生意気だとなるのです。女性の上司を好まない、これも少なくないのではないかと思います。

3番目に対等な地位にあるとは考えていない。セクハラは女性が男性に仕えるものという考えから生じます。

さらにDVという問題もあります。DVはなぜ起きるのか、外でのストレスを誰かにぶつきたい、誰にぶつけるのかといいますが、子供とか奥さんとかにぶつけてしまうというようなことです。そして、DVをやっている男性は外で見るととてもそんなことをやる人には見えない場合があります。そういう点では、家庭で欲求不満を発散させていることもDVの原因として挙げられます。

4番目として、女性は結婚して子供を産むことが一番幸せと思っている。男性は、悪気はないのですが、「まだ結婚しないのか。」などと言うのです。そして「守ってやっている。」と思っています。

私の言ったことに対して反発もあると思いますが、こういう点が男性の本音として指摘

できます。

他方で男性というものは苦しくても弱音を吐くべきではない、こういうような育てられ方をされてきています。「男らしさ」がよくいわれ、「男性の美学」という言葉を聞かれたことがあるかと思います。高倉 健などを思い浮かべていただければよいかと思います。寡黙であるが、頼り甲斐がある。女性はただ従っていけばいいというわけです。しかし、世の中の男性すべて高倉 健みたいな（実像は知りませんが）人ばかりではありません。男性でも、苦しい時には弱音を吐きたいことがあります。で結局どうなるかといいますと、失踪したり、場合によっては自殺してしまうこともある。中高年の自殺にはいろいろな原因があるとは思いますが、今述べた点も指摘できます。こういう男らしい男性に「おまえは、俺についてくればいいんだ。そして、家事や育児をやってくればいいんだ。」と言われ、女性がこれに満足していれば、第三者がどうこう言うことは何もありません。それはそれでその夫婦はうまくいっているわけですから、余計なことをする必要はないのです。

しかし、問題は女性がそれに満足しているのかということです。女性が不満に思っている、場合によってはこういうことに迷惑している、さらに DV などにつながると、これは社会的な問題になってきます。世代が若くなってくると女性もいろいろなことをやりたいという希望を持っています。ですから、女性の意識がどんどん変わってきているわけです。また社会自体も変わってきています。こうした点で伝統的な男性との間でトラブルが生じかねない、そういう状況ですね。

最初に性別役割分担は、男性にとって大変居心地がいいと言ったのですが、本当に居心地がよくそれでいいのなら問題ないのかもしれませんが、例えば定年後はいったいどうなのかということです。これもよく言われることですが、仕事だけに生きてきて、生き甲斐がなくならないのか、場合によっては熟年離婚ということもあるわけです。男性としては一生懸命働いてきた、定年後は奥さんとゆっくり旅行でもしようと考えていたところが、定年のときに「離婚届にサインしてください」といわれ、男性としては何でこんなことになるのかわからないのです。しかし、普段から不満がたまっていたわけですね。相談しようとしても、「今忙しいから」「疲れているから」ということで全然相手にされない、結局、家事、育児を全部奥さんに任せてしまったということで、男性としては、自分は一生懸命働いて家族を養ってきたという思いはあるのですが、それだけではすまない状況になってきているわけです。

コミュニケーションということが非常に重要になってきます。それは、子供との関係でも重要ですね。「ありがとう」の一言も言えない夫とこういう席上ではよく言うのですが、何かあったら、「ありがとう」の一言を言うだけで違うわけです。料理にしても、一言「おいしい」と言えば、やはり奥さんのやりがいも違って来る。そう言う点で、男性からするとわなくても分かっているだろうというような気持ちがあるのですが、これは男性の勝手な思い込みです。男性からすると、夫婦は一心同体と思っているのですが、必ずしも奥さんはそう思っていない。最近、女性の意識がどんどん変わってきているので、その点で

トラブルと言いますか摩擦が生じてきているのです。

以上は男性の本音といったところから、お話しました。

社会的問題として、DV が問題化してきている。また、熟年離婚も増加してきています。これは、以前からの傾向です。私も離婚と言うのは必ずしも良いものだとは思っていないのですが、そこに至る背景とはどういうものなのか、ということを考える必要性があると思っています。また、定年後どういう生き方をするのか、地域との関わりが大変重要です。会社とか、仕事関係の付き合いは、会社をやめてしまったら、途切れてしまうことが多く、そうすると孤立してしまい、頼るのは奥さんしかいない。そして奥さんから嫌がられてしまう。北陸中日新聞の水曜日の家庭欄に「つれあいに物申す」という本音でのコラムがあります。そこには確かに奥さんに感謝するというものもありますが、そういうものばかりでもない。「ずっと、家にいてノイローゼになる」というものもあります。あるいは、中高年男性の自殺が増加していることも、問題としてでてきています。こういうことを解決するにはいったい何が重要なのかを考えていく必要性があります。

また、社会が変化してきている、少子高齢化が進み、出生率が1.29まで下がりました。丙午（ひのえうま）の年は1.58でしたからずっと下がってきているということですね。これにはさすがに深刻な問題だということで、政府も本腰を入れて少子化対策として、次世代育成支援対策推進法という法律ができ、301名以上の従業員のいる企業には計画をたてさせることもしています。

少子高齢化に関しては、子供を産むか産まないかは、本人の自由であるということですが、ただ本当に子供が欲しいけれども、何らかの事情で生めない方については、やはり社会的に解決していかなければならない課題であろうと思っています。安心して子供を生み育てていく環境をどのように作るのか、これは男女共同参画にとっては重要な課題ではないかと思います。

こういう意味で少子高齢化をどのように克服していくかを考える必要があります。まず少子化の原因ですが、1つには、仕事と子育てを両立させていく環境整備が遅れているということと、高学歴化ということが指摘されています。（これは少子化社会白書で言われていることです。）2つ目には、結婚出産に対する価値観が変化してきた。特に未婚者の意識としては、理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わないという考え方が増加してきている。また、子供の存在に関する価値観、結婚すれば子供を持つべきかという問題、賛成は73%くらいあるのですが、反対も23%くらいあり、十年前に比べますと賛成が10%程度減り、反対は10%以上増えてきています。このような結婚、出産に関する価値観の変化とともに、子育てに関する負担感も増えてきています。さらにフリーターやニートといった経済的不安感の増大、結婚したくても収入が安定しないということも結婚しない理由となっています。それで、政府も少子化対策に本腰を入れているわけです。

2 男女共同参画とは何か

こういう状況であるので、男女共同参画について考えていかなければならないのです。

いろいろな法律がありますがそれは省略しまして、基本となる法律として最初に男女共同参画社会基本法が1999年(平成11年)に制定されています。その中で男女共同参画とはどういうものが定義されています。『男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。』といったこの男女共同参画社会で規定している女性像・男性像はどのようなものなのか。これは一言で言いますと、主体性をもった女性・男性であるということです。

しかも、自己の意思に基づいて、あらゆる場面において、主体的、自立的かつ対等に活動できる、また責任を担う。これは、政治的、経済的、社会的、文化的と具体的にでて来ましたが、こういう場面で主体的・自立的かつ対等に活動できる、また責任を担うことができることが目指されているわけです。従来女性と言うのは、保護される弱い立場という前提で法律なども作られてきていました。しかし、この男女共同参画社会になりますと、女性は保護を必要とされる弱い立場にあるのではない、男性と対等な立場に立って自己決定でき、かつ実現できるということです。これは男性についても同様なのです。しかも、ここで前提にしているのは、その意思に対して何らの制約も加えられない、多様な選択肢の中から自ら望むことを選択し、行いうるそのような社会が理想だとなっている。要するに男性も女性もやりたいことがある、これに対する障害を除去していきましょうということです。こう言う風に言いますと、よく社会がめちゃくちゃになっていくといわれますが、とにかく現在の様に本当にもっと社会に出て活動したい、しかし家事育児で出来ない。ボランティア活動が出来ない、あるいは男性が本当は主夫がしたい、しかし社会の目というのですか近所や親戚の人に何言われるかわからないということで主夫が出来ないということがありますが、結論から言いますと他人に干渉するということ自体やめておきましょう、こうあるべきだ、夫はこう、妻はこうではなく、中には奥さんがキャリアウーマンでバリバリやっけてうまくいっている家庭もある、他人がとやかく言う必要はないのです。そういうことを目指している社会です。

2番目に、男女共同参画に至るプロセスを見ていきますと、大体三段階くらいに分かれています。第1段階ではまず、女性プランが作られた時期があります。現実に女性は様々な場面で不利な立場に置かれているので、女性の地位向上が重要だとして、女性を対象にした施策のプランが作られた。金沢市にも最初女性プランというものがありました。

しかし、第2段階として、男女共同参加プランというものができてきました。どうして男性も施策の対象になってきたかです。確かに女性の地位が低いと言うことでそれを引上げる施策も重要ですが、簡単に言えば、結婚をし、奥さんが社会活動をしたいとなると、男性にも協力してもらわなければならない。これは女性プランでは、男性が側面から協力

するということです。しかし、そもそも家事・育児はどうして女性の仕事なのか。男性が協力ということは、あくまでも側面からの支援なのです。女性が活動するには男性の協力が必要、それでいいのか。本来家事育児というものを女性のみの仕事と考えていること自体おかしいのではないかと考えられるようになってきた。また男性の自立自体も重要な施策のテーマではないかと言われるようになってきた。確かに全て奥さんがやってくれる、それでずっといけば良いのですが、奥さんが病気になった、あるいは先に亡くなられた、一体そのあとその男性はどうなるのか。少なくとも自分の身の回りの事を自分ですることが必要ではないか。男性の自立とは、今後の男女共同参画社会を考えていくとき重要ではないか。男性に対する施策も直接的に必要で、女性のプランを横から支えるという考え方ではよくないのではないかとということで、女性プランから男女共同参加プランに変わってきたのです。

第三段階ではさらに意思決定まで関与していこうということで、男女共同参画プランになりました。では「参画」とは何かですが、これは、あらゆる場面での意思決定にまで女性が関わるという意味が含まれています。ですから、管理職に女性が加わっていく、あるいは例えば国レベルでは女性が大臣になり、議員になり、国の意思決定に女性が加わっていくことが必要である、最終的には対等に加わっていくことが必要であることになります。自治体ではまだまだ女性の議員が少ない、さらに町内会の会長、役員にも少ない。先ほど町長から、内灘町には女性管理職は三名であるとお話がありましたが、そのような形で意思決定に女性が関わっていくということがないと、当然男性社会も変わっていきません。

これらを踏まえて男女共同参画プランが出てきたのです。

こういう社会を実現していきましょうということですが、現実の社会は変わったところもあれば、変わらないところもあります。私は50歳を過ぎていますが、昔は学校の名簿は男女別名簿で、男子が先で女子が後でした、今は男女混合の名簿が採用されている時代です。何故名簿で男が先、女が後かとは絶対理論的には説明がつかない、単に男女という言い方があるということぐらいしか、説明がつかないですね。また、昔でしたら男性は技術、女性は家庭科でした。今はこのような分け方にはなっていないですね。昔は子供は男の子の方がいいとされていましたが、今は女の子の方がいいと若い学生も言ってますね。また働いている女性も少なかったのですが、明確な男の仕事・女の仕事の区分けがあり、例えば保育士や看護婦さんは女の仕事、一方トラックの運転手は男の仕事と区分けがありました。今はどんどん変わってきているという状況にあります。保育士、看護師という言葉がありますように、女性の職場だったところに男性が加わっていく、逆にバスやトラックの運転手を女性がやっている。こういう移り変わりを非常に分かりやすく示しているものがあります。NHKの朝の連続テレビ小説です。昔は「おしん」と言うのが典型的であり、どういう描かれ方をしていたか、忍耐強く、男性をたてるそういう女性が主人公だったのです。最近はそのようなことはないでしょう。シングルマザーを取り上げたり、女性は生き生きと活発に活動するように描かれています。NHKも変わったと言えるかと思います。

言葉でもいろいろと女性を差別するものがあります。「女々しい」という言葉、これはマイナスのイメージですね。このような言葉は最近では公式には使えないようになってきています。学校も最近変わってきていますが、例えば職場、家庭あるいは地域、政治の場面そういうところでは対等になってきているかといいますと、まだまだ不十分なところがあります。それをいろいろなところで施策を通じて変えていこうということで、ここにあるようなプランを作るようになってきているわけです。

3 男女共同参画を進めるにあたって

このような形で男女共同参画が進められてきているわけですが、何が重要なのかということですね。第一に、このような場で正確な知識を得ていただくということです。男女共同参画とはどういうものなのかという、正確な理解、客観的な事実に基づいて理解していただきたいということです。今ジェンダーという言葉が使われなくなっていますが、これは男らしさ、女らしさを男女共同参画は否定しているとの批判を考慮したためと言われていました。しかし、男らしさ女らしさを否定するのではなく、そういうことを押しつけるのを止めましょうということだと、私は理解しています。これは、女はこうあるべきだ、男はこうあるべきだそういう育て方ですね。女の子の中にはいわゆる男性的な子もいます。それは個性ですので本人が満足しているということであれば、それまで否定することは良くないのではないかと思います。

また、男らしさ女らしさを全面的に否定することまでは男女共同参画社会では言っていないので、その人のいろいろな生き方、個性を尊重していこうということです。そういうときに、この社会的に作られたジェンダー「男はこうあるべき、女はこうあるべき」ということをなくして、それぞれの個性を尊重していこうということです。男女共同参画社会になったら家庭を破壊するといった意見もあります。夫婦が性別役割分担で満足していれば、何もとやかく言う必要はありません。そこで満足していない状況が生じた場合に社会的な方策を考えていこうということが、このようなプランを作る際に重要であるのです。ですから、男女共同参画社会になると、学校で男子と女子が同じ部屋で着替えることになるとかですね、そんなことは絶対にはないのです。しかし、そういう間違っただけがいろいろ言われてきていることが問題なのです。やはり、正確に事実に基づいて議論していくことが必要だということが重要なことです。

2つ目として先ほど男性の本音ということを行いました、しかし本音で突っ走るといろいろ問題がでてくるわけですし、建前も重要です、少しでも建前に近づけるようなことも必要になってくると思います。相変わらず社会の女性を見る目は厳しいといっているかと思えます。ある自治体では女性を一定のポストには付けたのですが、ちょっと失敗するとそれみたことかと批判する、これが男性ですとそれほどでもないのですが女性ですと非常に批判するわけです。それで、女性だからだめだと結論を導き出す傾向もあるわけですが、そういうことも変えていく必要性もあるわけです。

3つ目として、男女の主体性、自立性も大切なことです。女性に対しても厳しく言う
と甘えをなくしていく、という気持ちをもっていかなければならないということです。責任
ある地位を打診されると尻込みする傾向もないわけではないです。それぞれ個人的な事情
があるかもしれませんが、主体性とか自立性が男女共に求められてくるのではないかと
いうことです。

4番目として、男女共同参画に対しての鋭敏性、鋭さですねこういうことも必要になっ
てきます。特に今日職員の方参加されていますけれど、男女共同参画プラン、金沢市と加
賀市のを持ってきましたが、これは各課でそれぞれどういう施策が重要かということで考
えてもらわなければならない。そういう点で、あらゆることを男女共同参画の視点で見
ていかなければならないのですが、これまで当たり前だったことが男女共同参画の視点で
みるとまた違った施策が行えるといったことも少なくないと考えられます。あらゆることを
男女共同参画の視点でみる必要があるわけです。

5番目としてその為にはまず市民だけではなく、職員のニーズも把握し的確に反映して
いくことが必要です。公務員の職場というものは市民から見られているのです。例えば、
男性も育児休業を取得できるのですが、男性の育児休業の推進を言いますと、まず役場
の人が取っているかと言われるのです。ニーズを把握し模範となる、こういうところが
求められてくるのではないかと思います。

最後になかなか難しいことですが、働き方をどう変えていくが、これも男性中心の働き
方、長時間働くこと自体を徐々に変えていかなないとなかなか男女共同参画社会の実現には
ならないといえます。本当は特に若い男性などは家事育児に関わりたいという気持ちもあ
るのですが、夜遅くまで仕事をしているとそういうことができない、ということです。こ
のあたりは国がもっと積極的にならないといけないところです。

何れにしても、男女共同参画に関していろいろな制度を作ることも重要なのですが、最
後は意識を変える、これがなかなか大変なことです。男女の性別役割意識をどのように変
えていくのか、意識を変えるのは強制できないのです。そこでさまざまな啓発活動や地道
な取り組みをしながら、徐々に変えていくことが重要であると思います。これもトップの
意識が変わらなるとなかなか下にはいかない。先ほど町長の挨拶を伺ったところ、こう
いう施策を重視していきたいといわれたので、内灘町でも積極的に進んでいくのではないかと
期待しております。

何事においてもトップの意識が下の方へ反映してくるというところがありますので、こ
れから良い取り組みができると思っています。私も出きる事はやりたいと思っています
ので、男女共同参画プランづくりから始まって、このような社会が少しでも実現に向かっ
て進むよう頑張っていかなければと思います。